別記様式第４号

博士論文の要旨及び審査結果の要旨	
氏　　名	WANG Yuqing
学　　位	博　士（文学）
学位記番号	新大院博（文）第 53 号
学位授与の日付	令和元年 9 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 3 項該当
博士論文名	定住外国人学習者の談話展開と日本語再学習 ―中国人結婚移住女性の談話における接続表現を手掛かりに―
論文審査委員	主　査　准教授・江畑 冬生 副　査　准教授・足立 祐子 副　査　准教授・池田 英喜

博士論文の要旨

本論文は中国人結婚移住女性の日本語による談話資料を分析し，結婚移住女性が，自身の述べたい内容をどの程度目標言語により産出することができているかを明らかにするとともに，初級日本語教科書が結婚移住女性の日本語再学習という目的にどの程度合致しているのかに関して，主として接続表現を中心とする談話展開方法に焦点をあてて考察したものである．筆者は，中国人結婚移住女性の日本語による談話資料，中国人結婚移住女性の中国語による談話資料，日本語母語話者の日本語による談話資料の 3 者を対比することに加え，3 種類の初級日本語教科書における接続表現の取り扱い方を詳細に分析することにより，この問題を解明しようと試みている．本論文は以下の全 8 章から構成される．

第 1 章では，本論文の研究背景を述べるとともに，研究目的および論文の構成を示した．

第 2 章では，結婚移住女性の日本語学習に関する一連の先行研究の中における本研究の位置づけを示した後，テキストの構成と結束性，接続表現，談話分析に関わる先行研究を通観した．さらにこれらを踏まえた上で，改めて本論文の目的と位置づけを提示した．

第 3 章では，談話資料分析に立入る前に，24 名の調査協力者，調査方法，録音資料の文字化の方法，調査に使用した各種資料に関する説明を行った．

第 4 章では，中国人結婚移住女性の談話資料の分析を行った．まず，中国語による談話資料を示してその情報量を検討した．次に，日本語による同一内容の談話資料を示して同様に情報量を検討した．両談話資料の情報量を比較検討した結果，資料の絵を説明する中心的な

内容に関しては大きな差異は見られないが，部分的には両者の間に違いがあることが分かった．本章では，中国語による談話には含まれるが日本語による談話には欠けている内容を，背景設定に関する表現，感想や心理を表す表現，協力者自身の絵に対する見解，ストーリー展開を補足する表現の 4 つに分類した．

第 5 章では，まず日本語母語話者の談話資料の分析を行い，これを前章で分析した中国人結婚移住女性の日本語による談話資料と比較することで，中国人結婚移住女性の日本語による談話の特徴を明らかにした．結果として中国人結婚移住女性と日本語母語話者の談話資料における接続表現には，異なり語数では大きな相違点が見られないものの，使用された接続表現の種類には顕著な違いが見られた．さらに両談話資料における 1 文あたりの節数を比較することで，中国人結婚移住女性が談話において単文を羅列する傾向があることが分かった．加えて中国人結婚移住女性の談話には，「～て形」を多用する傾向も観察された．

第 6 章では，3 種類の初級日本語教科書における接続表現および談話展開の分析を行い，これを中国人結婚移住女性の日本語による談話の接続表現および談話展開と比較した．考察対象の 3 種類の初級日本語教科書のうち『みんな』『げんき』に関しては，中国人結婚移住女性の日本語による談話と同様の傾向も見て取れた．一方で『NEJ』は，初級段階にあっても談話の結束性を重視しテキストの結束性を生む手段を学習者に提示しているという特徴を有することが分かった．

第 7 章では，中国人結婚移住女性の日本語再学習支援という観点から，日本語教科書および教育方法に関する検討を行った．筆者はまず，現在広く用いられている初級日本語教科書には，中国人結婚移住女性のような日本語運用能力段階にある学習者に上手く対応できていない側面があることを指摘した．この点を踏まえて筆者は，接続表現の提出順序とその説明方法を巡って，初級日本語教科書の構成と記述の再考を行った．

第 8 章では，本論文の結論をまとめるとともに，今後の課題を示した．

本論文で得られた主な結論は以下の通りである．

第一に，中国人結婚移住女性の日本語による談話資料と中国語による談話資料を対比し，結婚移住女性が目標言語である日本語によってどの程度の内容を産出できているのかについて明らかにした．結果として，資料の絵を説明する中心的な内容に関しては大きな差異は見られなかった．ただし部分的な違いとして，中国語による談話には含まれるが日本語による談話からは欠落する傾向のある 4 種の表現（背景設定に関する表現，感想や心理を表す表現，協力者自身の絵に対する見解，ストーリー展開を補足する表現）があることを指摘した．

第二に，中国人結婚移住女性の日本語による談話資料と日本語母語話者の談話資料を対比し，結婚移住女性の日本語による談話の特徴を明らかにした．結果として中国人結婚移住女

性と日本語母語話者の談話資料における接続表現には，異なり語数では大きな相違点が見られないものの，使用された接続表現の種類には顕著な違いが見られた．さらに両談話資料における 1 文あたりの節数を比較することで，中国人結婚移住女性が談話において単文を羅列する傾向があることが分かった．加えて中国人結婚移住女性の談話には，「～て形」を多用する傾向も観察された．

第三に，3 種類の初級日本語教科書における接続表現および談話展開の分析を行い，これを中国人結婚移住女性の日本語による談話の接続表現および談話展開と比較した．考察対象の 3 種類の初級日本語教科書のうち『みんな』『げんき』に関しては，中国人結婚移住女性の日本語による談話と同様の傾向も見て取れた．一方で『NEJ』は，初級段階にあっても談話の結束性を重視しテキストの結束性を生む手段を学習者に提示しているという特徴を有することが分かった．

第四に，中国人結婚移住女性が日本語再学習を行う際の学習内容・学習方法に関する提案を行った．現在広く用いられている初級日本語教科書は，中国人結婚移住女性のような日本語運用能力段階にある学習者に上手く対応できていない側面があることを指摘した．この点を踏まえて筆者は，接続表現の提出順序とその説明方法を巡って，初級日本語教科書の記述の再考を行った．

審査結果の要旨

近年，国際結婚の増加等を背景として，日本語教育を取り巻く状況は大きく変容している．従来の日本語教育は，大学や日本語学校の教室で学ぶ留学生・ビジネスマンを主たる学習者として想定したものだった．これに対し近年では，中国人結婚移住女性のような地域住民に対する日本語教育の必要性も高まった．しかしながら地域住民に対する日本語教育の現状は，決して専門的スキルが高いとは言えないボランティアに頼る部分が大きいのも事実である．本論文の調査協力者である中国人結婚移住女性は，日常生活におけるコミュニケーションに困らない程度には日本語を使用できるが，自らの日本語能力を向上させたいと願ってもいる．このような学習者のニーズに応えられるような学習内容・学習方法を設計することも，日本語教育界の 1 つの大きな課題となっている．

WANG Yuqing（王瑜青）氏の論文は以上のような点を背景として，中国人結婚移住女性の日本語における談話資料の特徴を，自ら調査して得た一次データに基づいて考察した．調査方法としては，まず中国語による談話資料を検討し，次に日本語による同一内容の談話資料を検討し情報量や接続表現における特徴を明らかにした．筆者はさらに中国人結婚移住女性

の日本語における談話資料を，日本語母語話者の談話資料と比較することでいくつかの興味深い調査結果を示した．筆者はこの結果を踏まえ，3 種類の初級日本語教科書における接続表現および談話展開の分析を行い，これを中国人結婚移住女性の日本語による談話の接続表現および談話展開と比較した．筆者は最後に，接続表現の提出順序とその説明方法に関して，初級日本語教科書の記述の再検討を行った．

本論文は全体として，日本語教育と日本語学習者を取り巻く状況が多様化している現在において，定住外国人への日本語再学習の問題に対し，中国人結婚移住女性の談話資料および初級日本語教科書の記述の両面を一次資料として考察した点が肝要である．論文中で示された結論について特に以下の二点は，学術的に高く評価しうるものである．

第一に，中国人結婚移住女性による日本語談話資料の特徴を一次資料により明らかにした点が挙げられる．結婚移住女性の日本語談話は，同一内容の中国語談話資料に比べ，情報量そのものには大きな差異は見られなかった．ただし部分的な違いとして，中国語による談話には含まれるが日本語による談話には欠ける傾向のある表現タイプがあることを指摘した．接続表現に関しては，異なり語数では大きな違いは見られないものの，使用された接続表現の種類には顕著な違いが見られた．さらに中国人結婚移住女性の談話には，単文を羅列する傾向や「～て形」を多用する傾向も観察された．

第二に，初級日本語教科書における接続表現・談話展開を分析するとともに，定住外国人に対する日本語教育（日本語再学習）について再考を行った．現在，日本を含む世界各地で広く用いられている初級日本語教科書には，接続表現の提出順序とその説明方法に関して，中国人結婚移住女性のような日本語運用能力段階にある学習者に上手く対応できていない面も見受けられる．その一方で，初級日本語教科書の中にも，談話の結束性を重視し結束性を生む手段を学習者に提示しているという特徴を有するものも存在する．

本論文には，インタビュー調査の詳細な実施方法や，日本語接続表現の分類基準および文法形式の名称と定義に関して，若干説明不足の点が見られた．ただしこれらの点は，本論文の学術的価値を大きく損なうものではない．

以上の審査内容に基づき，論文審査にあたった 3 名の委員による審査委員会は，言語学・日本語教育分野における標記論文が博士（文学）の学位を授与するに値するものと判断した．